

## 創作 自分の音楽をつくろう

ここでは、言葉とリズム、言葉とメロディー、メロディーと和音、といったそれぞれの関係に着目し創作を進めていく。

### [言葉からリズム&メロディーをつくろう]

#### ●ヴォイス・リズムをつくろう

杜甫の五言絶句を取り上げたが、通常の詩でも、あるいは、たとえば歴史年号の語呂合わせ暗記法、数学の公式、早口言葉でも、あらゆる言葉を取り上げることで興味をもたせる。日本語に限定しなくてもよい。

基本として、言葉がもつリズムに自然に合うものを作るが、あえて逆らったリズムを付けることで个性的になることもある。ユニークなリズムをめざしたい。かえてそれは記憶に残る(印象が強い、个性的)=覚えやすい、ということになる。

速いテンポで演奏すると、いわゆる「ラップ」のようになる。一方で、ゆっくりとしたテンポで、能の「謡」のような雰囲気にも挑戦させたい。

手拍子、打楽器の使用、テンポの工夫、声の出し方の工夫などにより、各自独特の表現を行っていることに気づかせる。

即興を重視させたいうえで、楽譜に書かせるようにするとよい。

教科書p.87~89のヴォイス・アンサンブルを参考にしながら、ヴォイス・アンサンブル曲を作曲させてもよいだろう。

なお、ここでは基本的に音高は指定していないにも関わらず、必ず抑揚(高低)が付いているはずである。そこからメロディーが芽生えてくることを感じさせ、次の項目に進む。

#### ●メロディーをつくろう

言葉の自然な抑揚に合わせて、音の種類を限定した上でメロディーをつくってみる。言葉のアクセント(抑揚)に反すると、意味が聞き取りづらくなるので留意する。一方で、あえて抑揚に反した

メロディーも試しにつくってみよう。かえてそれが特徴あるメロディーになることもある。

#### ①〈ラ・ソ〉の2音を使って

日本語の高低のアクセントをもとにしたごくシンプルなメロディーとなる。

#### ②〈ラ・ソ・ミ〉の3音を使って

#### ③〈ラ・ソ・ミ・レ〉の4音を使って

こういった3音や4音を使うと、「わらべうた」のようなメロディーとなる。知っているわらべうたを調べ、使われている音の数が少ないことも確認させたい。

なお、これらのメロディーにいくつかの和音を自由に組み合わせて伴奏を付けてもよい(譜例1)。

#### ④〈ラ・ソ・ミ・レ・ド〉の5音を使って

p.111の「五音音階でメロディーをつくろう」の内容に繋がることとなる。

### [ベース&音階に乗せてメロディーをつくろう]

#### ●五音音階でメロディーをつくろう

五音音階の音楽は数多く見られるので、例を多く挙げたい。また、調べさせたりもしたい。「楽典」p.117の「音階」のページも参照。

教科書所収の五音音階による作品例:「In My Life」(p.14/ただしいくつかの例外の音はある)、「茉莉花」(p.57)、「小さな空」前半部(p.60)、「ソーラン節」(p.67)、「南部牛追歌」(p.68/都節音階)、「こきりこ」(p.69)、「木曾節」(p.70/ただしいくつかの変化音はある)。

五音音階のメロディーに付ける和声の可能性は幅広い。ここでは、④や⑤のようなシンプルなバスを提案した。④は変ト長調の主和音(と属和音)を、⑤は、変ホ短調の主和音(と属和音)を示唆する。3部形式の曲の例を示す(譜例2)。

メロディーを数種組み合わせることもできる。譜例3では、Aの部分はカノンを主体として、Bの部分では、2種類のメロディーを組み合わせている。任意で打楽器を加えてもよい。